

取扱説明書

日本消防検定協会 検定合格品

赤外線式スポット型感知器 FDCJ001-D-X (試験機能付)



注意



この製品は消防法に定められた「自動火災報知設備」の構成機器です。他の用途には使用しないでください。

注意



ご使用の前に、この取扱説明書を必ずお読みください。また、本文中にてくる注意事項を注意深く読み、よく理解してご使用ください。

- ・この取扱説明書は、いつでも使用される所に保管してください。
- ・この商品は定期的な保守点検を必ず行ってください。

NOHMI

仕様

種 別	赤外線式スポット型感知器 (試験機能付)
国検型式番号	感第15~39号
定格電圧・電流	DC24V, 50mA
監視時消費電流	約150μA
使用温度範囲	-10℃~+50℃
接続可能受信機	当社 進Pシステム用受信機 (FAPJ/FCSJ101シリーズ) R-22MX/LX/EXシリーズシステム用中継器 (FRR028-4FP)
最大接続個数	20個/回線
主 材	[本体] : ABS樹脂/ポリカーボネート系樹脂 (ライトグレー色) [ベース] : ポリカーボネート系樹脂 (ライトグレー色)
取付ベース (別売品)	FZB018-4 (露出型)

- ・このカタログの記載内容は2004年1月現在のものです。
- ・この製品の外観および仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

商品の概要

火災検出原理

赤外線式スポット型感知器(CO2共鳴式)FDCJ001-D-X型は、物が燃焼する時に発する炎からの放射エネルギーを検知することにより、火災の発生を感知するものです。

主な用途

本炎感知器は、次のような場所に適しています。

- (1) デパート・スーパーの売り場やトイレなど放火の危険性のある場所。
- (2) 映画館、劇場、アトリウム、格納庫などの高天井を有する建物。
- (3) 工場など換気流、外気の流入のある建物で、他の種類の感知器では有効に火災感知できないおそれのあるところ。

設置上の注意

- (1) 太陽の直射光が直接受光部に入らないような配置を選定する必要があります。
- (2) 感知器受光部の直近の視野を、発熱体(ランプ光源等)が移動するような環境に設置すると非火災報がでる可能性があります。
- (3) 実際に取り付ける場所の見通しを確認し感知器の視野角内に障害物が無いか確認してください。
- (4) 壁付で設置する場合は確認灯を上になしてください。



- (5) 感知器の前に透明の亚克力板やガラスがある場所に設置しないでください。失報の原因となります。
- (6) 非防水型のため水場に設置しないでください。

注意



感知器の清掃などの点検作業は、感知器の直近で行います。点検を安全に行うために、必ず足場を確保してください。

注意



分解しないでください。感電などの障害が起こる可能性があります。

注意



この製品の取付け、調整・メンテナンスは法によって定められた有資格者が必ず行ってください。なお、大切な防火システムのメンテナンスは多数の有資格者を有する当社CS部門または当社機器代理店・特約店にご用命ください。

感知器の接続方法

- (1) 感知器ベースはFZB018-4 (露出型) を使用してください。
- (2) 本感知器は、感知器の作動に伴い、受信機に信号を送ると共に、室外表示灯を接続することにより、室外で感知器の作動を確認することができます。
- (3) 本感知器と受信機間の外線接続および他の室外表示灯との外線接続は下図2を参照してください。感知器のXL1(-)、XL2(+)端子は有極性のため、室外表示灯回路付感知器を接続する場合は極性を合わせてください。
- (4) 室外表示灯はFLL061型シリーズ(赤色発光ダイオード:最大定格50mA、逆耐電圧3V)を使用してください。

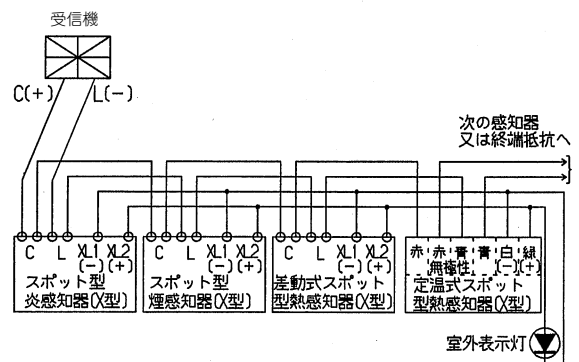


図2 結線図〔室外表示灯を使用する場合〕

監視距離と視野角

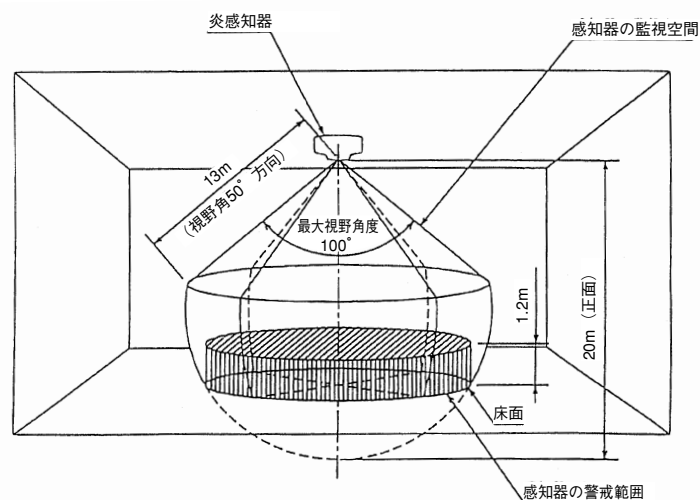
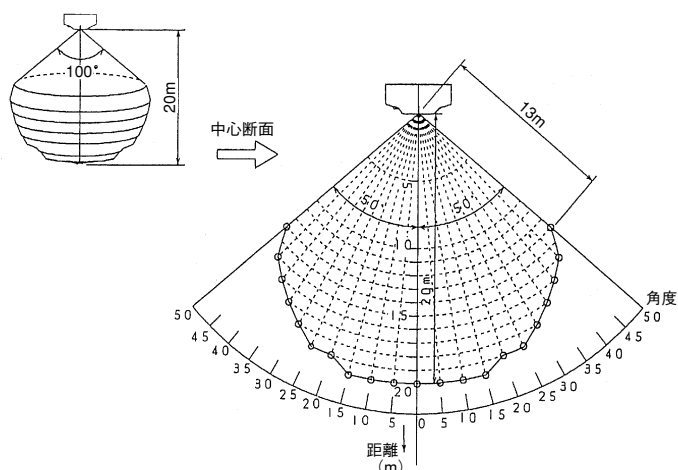
本炎感知器は、炎を検知する受光部の特性により、視野角ごとに監視距離が異なり、また最大視野角は感知器中心軸の両側合わせて100度の円錐状の視野を有します。従って監視範囲は図1に示す通り、円錐の先端にほぼ半球を加えた様な形となります。本炎感知器の公称監視距離を表1に示します。設置される時は下表1に従って床面から1.2mまでの空間の各部分から感知器までの距離が公称監視距離の範囲内にあり、また視野角度が感知器の中心軸から50度以内に入るように設置してください。

注意	視野角は必ず確認し、未監視範囲を生じないように注意してください。
!	不適切な設置は失報の原因となります。

表1 監視距離

感知器中心軸からの視野角(度)	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
公称監視距離(m)	20	20	20	20	19	19	18	17	16	15	13

図1 FDCJ001-D-X型の監視範囲

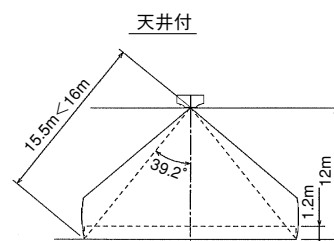
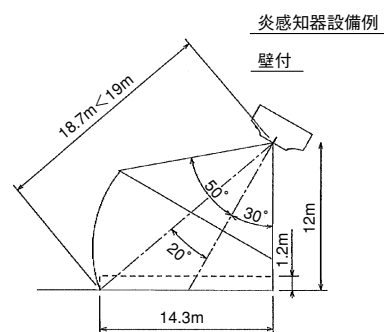


FDCJ001-D-X型の立体警戒範囲

自動試験機能

感知器の「窓の汚れ」と「火災検出機能」を定期的に監視しています。感知器が受信機に「異常」を送信した場合は、感知器の中央部にある大・小2ヶ所の窓を清掃してください。清掃後、再度「異常」になる場合は感知器を交換してください。

注意	清掃するときは必ず感知器を取り外し、柔らかい乾いた布で拭いてください。
!	取り付けた状態で清掃すると非火災報の原因となります。
注意	ベンジン、シンナーなどの溶剤、研磨剤を含むクリーナーなどは使わないでください。
!	本体の変色、変形などの原因となります。



NOHMI 能美防災株式会社

本社 〒102-8277 東京都千代田区九段南4丁目7番3号
TEL (03)3265-0211 (大代表)